



令和6年度 学校法人尚絅学園事業計画書

I. はじめに

尚絅学園は、平成25年に向こう10年間の学園の中長期計画として「長期ビジョン(将来像)と中長期行動計画」を制定し、その後、平成27年、平成29年、令和元年及び令和3年の計4回改定を行いながら、学園の将来像実現に向けて取り組んできました。

今日、人口減少や少子高齢化が進み、他方では人工知能(AI)や身の回りのあらゆるモノがインターネットにつながるIoT(モノのインターネット)などを活用することで、社会全体をより効率的で持続可能なものにしようとする「超スマート社会(Society 5.0)」の実現に向けた技術革新が加速し、社会は急激に変化しています。このような予測困難な時代の中、尚絅学園は令和5年度から10年間の「第二期中長期計画」を制定し、学園の現状と課題、学園を取り巻く環境の変化や今後の方向性を踏まえた本学園の目指すべき姿(ビジョン)を掲げ、ビジョン達成のために教職員が一丸となって諸課題へ取り組んでいます。

令和6年度事業計画書は、「第二期中長期計画」における諸課題への取り組みに加え、多様化、複雑化するニーズに応える人材の育成や質の高い教育機会の確保に尽力し、着実に施策を実施するための年度計画としています。

II. 主な施策

1. 学園全体・学校法人

本学園が「教育研究機関」として社会の要請に応え、学生・生徒等が充実した学校生活を過ごすためには、経営力の強化による安定的かつ強固な財務基盤の構築、人材育成の強化、施設設備及び教育・研究環境の整備が必要不可欠です。

- ガバナンス
経営の規律と誠実性を維持しつつ、「建学の精神」「教育理念」に則った教育を実現するための体制整備に努め、管理部門と教学部門の円滑な意思疎通と連携を図るとともに、相互チェックを適切に機能させます。また、人権・安全へ配慮した危機管理体制及びSDGsへの取り組みを強化します。
- 財政
中長期計画に基づく適切な財務運営を確立し、安定した財務基盤のもと収支バランスの均衡に努めます。
- 人事
各設置校の使命・目的に則し、財政状況を踏まえた適正な人員配置と、公正・公平で納得感のある人事評価の確立と適正な処遇の実現に努めます。また、適切な人事管理・労務管理体制を確立し、教職員の資質・能力の向上と職能開発を実施します。
- 施設設備
外部環境の変化に対応した教育・研究環境の整備と適切な運営・管理を実現します。
- 同窓会・後援会・地域との連携
同窓会、後援会および地域との連携強化に努め、各設置校の発展に寄与する活動を支援します。

2. 尚絅大学・尚絅大学短期大学部

本学における喫緊かつ最大の課題は学生確保です。18歳人口の減少や学生ニーズの多様化等により全国的に女子大や短大離れが見られる中、これまで入学定員を充足していた生活科学部や幼児教育学科も含め、令和4年度には全学部・学科で入学定員を下回り、同5年度は大学・短期大学部全体で入学定員充足率が過去最低になりました。本年度もその状況を改善できず、極めて深刻な事態です。同7年度入試では、入学定員充足率の低い現代文化学部や総合生活学科をはじめ、全学部・学科で教育内容の魅力高めるとともに広報活動を強化します。また、社会人入学者の増加を図るとともに正規留学生の募集と選抜方法等について早急に具体的検討を行うなど、従来の取り組みをさらに発展させ、入学定員充足率の向上を図ります。

昨年度、第二期中長期計画(2023年4月~2033年3月)がスタートしました。第一期中長期計画では、教育内容の改善としてカリキュラム編成の高度化や学生ニーズへの適切な対応、取得可能な免許・資格の見直し、教育方法の改善を行いました。特に、本学の強みである「食」や「子育て」分野に加え、観光文化における地域連携や貢献についても、外部から一定の評価を得ています。第二期中長期計画2年目である本年度は、さらなる教育方法の充実、学修成果の見える化、地域連携活動及び研究活動を推進します。また、国際交流の促進や地域に向けたシンポジウム・研究会、公開講座、中高大連携などの充実を図ります。

本年度は大学と短期大学部が共に日本高等教育評価機構による認証評価を受審します。自己点検評価書に示した改善・向上方策の実施を開始し、内部質保証委員会を中心に、全学部・学科の教育の質及び大学全体の質を確保するためのPDCAサイクルを実践します。

3. 尚絅中学・高等学校

令和5年度は、コロナ禍の感染防止対策の緩和により学校教育活動がほぼ制限なしで実施することができ、生徒の学校生活に対する満足度の向上は図れたものの、教育の質向上までには至っていない。また、課題である志願者数・入学者数の増加についても、学校ホームページの充実や学校案内パンフレットの改善を行ったり、近隣の小学校や県内の中学校及び学習塾の訪問回数を増やしたりしたが、顕著な成果としては現れていない。

第二期中長期計画の2年目にあたる令和6年度は、各コースにおける学びの更なる魅力化と発展を図るため、大学等との連携による教育力の向上に取り組むと共に、生徒の能力を最大限に引き出すための教職員の指導力の向上を行う。また、志願者数・入学者数増加のための広報戦略については、学校訪問する地域や時期・回数などの見直しを行う。なお、令和6年度のアクションプランに対する重点施策及び具体策は以下のとおりである。

- ①「教育の質向上」については、生徒の能力を最大限引き出すための教員の指導力向上を目指し、専門教科の指導力だけでなく、グローバル時代を生き抜く生徒を育成するために教員自身の視野を広げ、教育力の向上を目指す。
- ②「品性があり社会に貢献し得る生徒の育成」については、尚絅中学校高等学校独自のシステムを充実させ、生徒が自分自身を見つめ、自分にふさわしい生き方を見出すことができるように、社会と時代の動きに目を向け、一人の人間として、また女性としての将来について自ら考えていくことを軸にした指針を示す。
- ③「生徒支援の充実」については、生徒が安心して学べるように経済的に就学困難な生徒への各種制度を充実させると共に、育友会・同窓会・後援会との連携をさらに深めながら生徒の日常の学業・課外活動等の支援体制を整える。
- ④「地域貢献の推進」については、地域に開かれた学校としてボランティア活動や地域行事へ参加し、社会のニーズに応じて環境活動や地域社会に積極的に参加する生徒の育成を目指す。
- ⑤「個性豊かな生徒の獲得」については、女子の総合学園としての魅力発信の充実と広報戦略の見直しを行い、短期大学・大学への内部進学を希望する生徒の募集に力を入れると共に、様々な分野で頑張っている生徒を広く受け入れるために、生徒・保護者・同窓会との連携を深め、情報収集を行う。

4. 尚絅大学附属こども園

附属こども園では、「認定こども園教育・保育要領」等3法令の改訂等の趣旨を受け、教育・保育の目標達成をめざし「尚絅らしさ」を生かした改善・充実に努めるとともに、在園児保護者と地域保護者の支援に努めるという2つの目的の達成による社会貢献に努めています。まず、教育・保育です。「全体的な計画(教育課程)」を作成し、「子どもの発育にふさわしい自然の風情をそのままに生かし、環境の構成(教育的意図)を創造し、子どもの健やかな成長をめざす」ことを目標に、「尚絅らしさ」を「自然豊かな園庭で伸び伸びと遊ぶ園児」として、全教職員が質の高い、温かい愛情に満ちた教育・保育を推進します。今後は、協働してクリエイティブな実践を展開していくことが課題です。

次に、保護者支援です。日頃の教育・保育の充実やPTA(杉の子会)との協力と共に、在園児保護者にも地域保護者にとっても安心できる子育て支援を「どんぐりルーム」や「子育て相談会」等で推進しています。ここ数年、特別な支援を必要とする園児や援助・配慮を要する保護者の増加に伴い、園児の安全性の確保や発達特性に応じた教育・保育の対応力の向上、療育施設との連携・協力、保護者の相談事業等とはもとより、保育者数の確保や研修が急務となっていますが、保育者の常時確保が難しく決して安全な教育・保育が保障されているとは言えない状況も見られます。また、園児の命と安全を守るために、子育てに不安や困り感をおもちの保護者、DVや児童虐待事案等に対して、行政機関・小学校・療育施設・児童相談所・警察等との連携・協力による支援を実施しています。

さらに、本園の使命である教育実習の充実に努めています。担任保育者の業務負担が大きく担当が難しい保育者もおり、実習内容の見直しや改善が課題です。令和5年度新設された尚絅大学こども教育学部、教育実習の在り方の改善・開発の協議も進めています。今後とも、学校法人としての社会貢献度を高め、附属園の使命として次世代保育者の育成に努めます。

喫緊の課題は、収支均衡のための園児の確保です。周辺市町は熊本市のベッドタウンとして人口増加率が高く海外からの進出企業の影響もあり数年は少子化の影響は少ないと見られていましたが、昨年度の募集では3歳1号園児が定員に満たない状況で、収支均衡を実現するための園児の確保ができていない現状です。これまで、1号園児数を確保するために従来に在る園児に加えて卒園児の弟妹枠を設けたり、満3歳児を12名から18名に増やしたり、その他にも保護者サービスの向上に努めてきました。さらに、昨年度、1号保護者に「園児募集に関するアンケート」をとり、保護者のニーズの把握とそれに基づく対応策を協議しました。今年度からその対応策を実現していきます。将来的には、収支均衡を実現するための定員の見直し等の対応が必要になるかと思われます。

また、保育者の確保も大きな課題です。全国的な保育者不足であり、本園でも処遇の見直し等を図って確保に努める必要があります。DX推進では、昨年度ICT支援システム「コドモン」を導入し、保護者の利便性を高めました。今年度は「コドモン」内のドキュメンテーション機能等の活用を進め、職員の業務改善を図っていきます。広報誌やHP欄の充実、地域社会や自治体・市町教委、小・中学校、諸機関との連携、学校評価を生かした教育・保育の改善にも取り組みます。



尚絅大学・尚絅大学短期大学部

令和6年度 尚絅公開講座

38億年の命

開催日 10/5(土)、12(土)、19(土)

対象者 男女・年齢に関係なく受講できます

受講料 2,000円(高校生以下は無料)

開催場所 尚絅大学・尚絅大学短期大学部
九品寺キャンパス大学1号館10階ホール



テーマや申込方法は
ホームページにてお知らせいたします。



【お問合せ】
尚絅大学・尚絅大学短期大学部 庶務会計課
E-mail:shomuk@shokei-gakuen.ac.jp

尚絅中学・尚絅高等学校

令和6年度 中高体育祭

開催日

9/20(金)

開催場所

熊本県民総合運動公園
パークドーム熊本



尚絅大学附属こども園

令和6年度 こども園運動会

開催日

10/12(土)

開催場所

尚絅大学武蔵ヶ丘キャンパス
グラウンド

